

会議録

1. 開会
2. 市長発表

まずは新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行についてですが、10月中旬以降、道内の新型コロナウイルス感染者数は、増加傾向になっております。市民の皆様におかれましては、引き続き、基本的な感染防止対策を講じながらそれぞれ対処いただきたいと思います。

さて、11月3日には、千歳市出身の鈴木愛奈さんに「千歳市観光PR大使」に就任していただきました。就任式会場の新千歳空港にありますポルトムホールには、全国から約300の方が来場され、熱気あふれる中、委嘱状交付のほか、「観光PR大使」の初仕事として鈴木さんが「ちっぷくん」の声を演じた、支笏湖チップを紹介する観光PR動画を公開したところでございます。今後は、本市の魅力を全国に発信し、本市の知名度を上げていただくと同時に、「鈴木愛奈さんのファン」が「千歳ファン」になることで、より多くの方が千歳に来ていただくことを期待しております。

11月26日に、北海道日本ハムファイターズの「2022年千歳市応援大使」であります、「近藤健介選手」と「万波中正選手」が、本市を訪問することになっています。本年4月に開校した「みどり台小学校」を会場に、市民を対象としたトークショーなどを行いますが、本日が、申込みの締め切り日となっており、現在のところ定員を超える人数となっています。

また、8月からYouTubeを活用した本市の新しい広報、「ソラタヨニュース」を配信しており、多くの方々に利用していただいておりますが、このニュースでは、市内で行われたイベントや、市の行事などについて、動画でわかりやすく編集しており、写真や文字では伝えきれない臨場感が味わえるものになっています。メディアの皆様にもぜひご覧いただきたいと思います。

(1) 日米共同統合演習（実動演習）について

それでは、初めに日米共同訓練について申し上げます。既にお知らせをしております

すが、令和4年11月10日から11月19日までの日程で、日米共同統合演習（実働演習）が実施されております。市といたしましては、訓練計画概要の公表以降、訓練対応に係る体制を構築したほか、国に対しては航空機の整備等安全管理の徹底、米軍人の綱紀粛正、万全の感染防止対策などを強く求めたところであります。また、広報号外や市ホームページなどによる市民への周知や、市内関係機関との情報共有に努めております。

千歳基地における訓練の状況といたしましては、11月4日に訓練参加のため CV-22 オスプレイが4機基地に飛来し、昨日11月10日には、訓練参加のための離発着を確認したところであります。この訓練は11月19日まで行われますが、引き続き、市民の安全安心の確保に向けて情報収集に努めるとともに、得られた情報につきましては、速やかに連携してまいりたいと思っております。

続いて、11月4日に、日米共同方面隊指揮所演習 YS-83 の訓練計画概要が公表されたところであります。それによりますと、令和4年11月28日から12月13日までの日程で、日米共同方面隊指揮所演習 YS-83 を陸上自衛隊東駐屯地において図上訓練を実施することになっております。市といたしましては、訓練計画概要の公表以降、これまでと同様、国に対し、米軍人の綱紀粛正の徹底や速やかな情報提供などについて求めたところであります。また、市民への周知につきましては、市ホームページや市公式 SNS で既に周知しておりますが、この後は、生活情報誌への折り込みや公共施設等へのポスターの掲示などによる周知のほか、関係機関との調整会議を開催するなど、万全を期してまいります。

（2）水道料金の改定の見直しについて

次に、水道料金の改定の見直しについて申し上げます。市では、水道事業会計において、平成27年度から大幅な純損失の計上が続いていたことから、段階的に料金を改定することとして、1回目は平成30年に17.5%の引き上げを行ったところであります。2回目は、令和4年度に15%の引き上げを行う予定であります。昨年、新型コロナウイルス感染症の拡大による市民生活や地域経済への影響などに配慮し、改定期を当初の予定から2年延期して令和6年度として、その改定率を9%に圧縮して料金改定を行うこととしました。しかしながら、その後、新型コロナウイルス感染症の再拡大や原材料価格の高騰により、市民生活に身近な食料品や電気代など

の値上げが続いているほか、水道事業会計の経営状況や収支見直しの改善も図られたことを踏まえて、経常的な負担となる水道料金の値上げを見直すことが、市民や事業者等の経済支援にもなると判断し、令和6年度に予定している第2回の料金改定は行わないことといたしました。

なお、今後の料金改定についてであります。5年ごとの料金算定期間において財政収支見通しを策定した上で、料金水準を検証と料金改定の検討を行うこととしており、次回は令和8年で財政収支の見通しを策定し、9年度に11年度から15年度までの期間の料金の算定を行い、水道事業会計の経営状況や社会情勢などを踏まえ、料金改定について検討する予定としております。

3. 資料説明

(1) 日米共同統合演習（実動演習）について

(企画部長)

資料1に基づき説明

(2) 水道料金の改定の見直しについて

(水道局長)

資料2に基づき説明

4. 質問及び意見交換

(1) 記者クラブから事前に希望のあった項目について

(市長)

① 新型コロナウイルス感染症対策について

まず、「オミクロン株対応の2価ワクチンの接種状況と受け止め」についてであります。本市のオミクロン株対応2価ワクチンの接種につきましては、初回接種を終了した12歳以上の方を対象に、10月6日から市内の20医療機関において個別接種を実施しております。また、11月3日からは千歳アウトレットモール・レラにおいて集団接種を開始いたしました。「オミクロン株対応2価ワクチン」の接種状況ですが、11月9日までの実績として65歳以上の高齢者では接種者868人、接種率3.8%、全人口では接種者6002人、接種率6.2%となっており、これは全国と比較

して高齢者の接種率では 3.6 ポイント、全人口では 2.0 ポイント低い状況になっております。

次に、ワクチン接種の受け止めについてであります。今冬においては新型のウイルス感染症について、今年の夏を上回る感染拡大が生じる可能性があると言われております。現在の接種状況はやや低調な状況ではありますが、新型コロナウイルスワクチンは感染予防や重症化予防が期待されておりますことから、接種を希望する市民が速やかに安心して接種を受けられることができるよう、引き続き周知啓発に努めるとともに、接種を受けやすい体制整備を図ってまいります。

次に、今後の「感染拡大（第8波）の対応」についてですが、北海道が公表している感染者情報は 10 月中旬以降増加傾向にあり、11 月 8 日には過去最多を記録し以来 9000 人前後で推移しております。特に石狩振興局管内の医療機関の報告数値は、他の地域と比べて高い状況になっております。また、11 月 10 日の北海道の公表では、年代別の新規感染者は 59 歳以下が 81%となっており、特に 39 歳以下が 53%と若い世代が占めております。本市においても複数の小中学校等で学級閉鎖が生じている状況にあり、子供から子育て世代、高齢者へと感染が広まっている傾向がありますので、今後もしっかりと対応していく必要があると認識しております。

感染の拡大防止と、社会経済活動を両立していくためには、市民一人一人の基本的な感染防止行動が重要であると考えており、引き続き北海道と連携しながら、基本的な感染対策に対する再認識を持っていただくよう、さまざまな周知活動に努めてまいります。特に市民の皆様におかれましては、自身に感染の疑いが生じた場合の対処方法を確認して、感染拡大防止に注意を払うように努めていただきたいと思います。

次に、「インフルエンザ流行の対応」についてであります。この冬においては、新型コロナウイルス感染症に加えて季節性インフルエンザも流行する可能性があると言われております。インフルエンザの感染防止対策としては、新型コロナウイルス予防対策と重複しますが、流水・石鹸による手洗いのほか、「咳エチケット」の実践や室内のこまめな換気などが挙げられております。また、市では、インフルエンザワクチンの定期接種の対象となっている高齢者等に対し、重症化予防を目的に早期の接種を呼びかけています。国では、新型コロナとインフルエンザが同時に流行した場

合に備え、診療体制の強化や住民への情報提供等の対策を行うこととしており、検診におきましても国や道と連携し、適切に対応してまいります。

② キウス周堤墓群について

キウス周堤墓群を構成資産の一つとする、「北海道・北東北の縄文遺跡群」につきましては、昨年7月の世界文化遺産登録から1年が経過し、より一層、キウス周堤墓群の保護を図るとともに、キウス周堤墓群の価値と魅力を来訪者の皆様に伝える取り組みを進めていくことが重要であると考えております。

「キウス周堤墓群」における今年10月末までの入込者数は10,110人となっており、前年同期の入込者数が5,244人でありましたことから、92.8%と倍増している状況にあります。このことは「北海道・北東北の縄文遺跡群」への関心の高さとともに、多くの方々が世界の宝となった「キウス周知墓群」の価値や魅力を直接体感したいと感じていることの表れだと思っており、またさらに、世界文化遺産登録の効果が着実に表れてきているものと受け止めております。

現在、昨年12月に策定し「史跡キウス数低墓群整備基本計画」に基づき、展示室や休憩スペースなどを備えたガイダンス施設のほか、園路や見学用デッキ、駐車場などの整備に向け、基本設計を策定中であります。今後のスケジュールとしては、令和5年度に実施設計を行い、6年度と7年度の2カ年で工事を実施し、令和7年度の完成を目指しております。この完成までの間は、引き続き仮設の案内所などを設置するとともに、見学者から好評をいただいている「現地ボランティアガイド事業」を実施し、「キウス周堤墓群」の案内を行う予定であり、今後も「キウス周堤墓群」の価値や魅力を伝え、現地に足を運んでよかったと思っていただけるよう受け入れ環境の整備に努めてまいります。

③ 国の水際対策措置の緩和について

国は10月11日以降、国際線の水際対策措置について入国者数の上限を撤廃し、外国人の個人旅行を解禁するなど大幅緩和を行ったところであります。新千歳空港の国際線は7月のソウル線による再開以降、定期路線が徐々に再開されてきたところではありますが、インバウンドにつきましては、新千歳空港直行便によるもののほか首都圏や関西圏から国内線を利用して対応している状況が見られております。

昨年 10 月、日本政策投資銀行が実施した訪日外国人旅行者の意向調査では、新型コロナウイルス終息後に海外旅行したい国は日本がトップに挙げられているなど、日本の人気は依然として高く、北海道については東京、関西に次ぐ人気であることから、このたびの水際対策措置の緩和が新千歳空港国際線の早期再開や市内観光のにぎわいにつながるものと大いに期待をしているところであります。

④ 新千歳空港活性化・利用促進事業について

現在、空港応援キャンペーンとして、「新千歳空港応援商品券発行事業」、「とびたて・ちとせ航空運賃助成事業」、「ようこそ・ちとせ宿泊助成事業・商品券発行事業」を実施しております。

まず「新千歳空港応援商品券発行事業」についてであります。国内線ターミナル 2 階のセンタープラザ特設ブースにて、1 月 31 日までを期限として実施しており、交換に訪れた市民からは「商品券をもらったので、家族で映画を見に来た」などの声が寄せられるなど、10 月 31 日現在で約 8,541 万円分を引き換え済みであります。これは約 6 割（58.3%）の効果が完了している状況にあります。

次に、「とびたて・ちとせ航空運賃助成事業」は、新千歳空港を出発する航空機利用者に対し助成する事業で、9 月 30 日までの第 1 回期間には約 3,700 人に利用していただきました。利用者に行ったアンケートでは、「航空運賃助成があったので、旅行に行くことにした」などの声が寄せられており、約半数の方が、本助成事業が旅行の後押しになったと回答しております。10 月 1 日からは、第 2 回申請の受け付けを開始しており、11 月 9 日現在において、約 2,900 人が利用または利用を予定しております。

次に「ようこそ・ちとせ割」についてであります。11 月 1 日のチェックアウト分までを対象としており、速報値ではありますが、全体で 2 万泊のうち約 96%に当たる 19,120 泊が利用され、道外からの旅行客を中心に多くの方に利用していただきました。

次に「ようこそちとせ割」を利用した方を対象に、一人 1 泊当たり 3,000 円を配

布している「ようこそ・ちとせ商品券」につきましては、10月31日時点で発行額の約6割に当たる約3,854万円分の換金を終えております。

11月1日からは令和5年3月31日までの期間として、引き続き「ようこそ・ちとせ割第2弾」を実施しており、北海道で実施する「HOKKAIDO LOVE!割」と併せて市内への誘客を図り、事業者支援につなげていきたいと考えております。

また、空港施設の利用促進と本市の特産品の消費拡大のため、10月8日から10日の3日間、新千歳空港ターミナルビルにおいて「ちとせの魅力発見展」を開催いたしました。本イベントでは本市の特産品をはじめ、観光サテライトオフィス、ワークショップ、新千歳空港の歴史などについて展示ブースを設けてPRを行ったほか、空港内の商業施設を3,000円以上利用することで参加できる抽選会を実施し、観光客をはじめ、多くの皆様にご来場いただいたところであります。また、抽選会の参加者に行ったアンケートでは、9割以上の方から「また参加したいと思う」などの回答をいただいたほか、「特産品がたくさんあり驚いた」、「また支笏湖に行ってみたい」などの声をいただいております、本市の魅力がPRできたものと考えております。

さらに、道内誘客と空港利用促進のため、プロモーション事業として11月26日、27日に東京駅に近接する「トウキョウ トーチ パーク」において、北海道エアポートと道内7空港 所在10市町が連携し、道内空港および就航路線や冬の北海道観光のPRイベントを実施いたしました。内容としては、10市町が冬の北海道の魅力発信ブースを出展するほか、SNSキャンペーンの告知などを行う予定としております。

(2) その他の質問・意見交換

(記者)

来年4月に市長選が行われる予定ですが、私の個人的な考えでは、あまり市長にふさわしい方が山口市長以外にいないように感じますが、市長としては、どのようなお考えをお持ちですか。

(市長)

この件についてはかねてから申し上げたとおり、秋口から冬にかけて、私の今後の状況について申し上げたいと思っておりましたので、大体12月ぐらいになるかと思いますが、年内には皆様方に今後の行動について申し上げたいと思っております。

(記者)

千歳市でアイヌ関係の事業が多く行われており、市長、副市長、企画部長も出席されて非常に熱心だと思っています。千歳市は北海道の玄関で観光客も多い場所であることから、今後さらにアイヌ施策を充実させる予定はありますでしょうか。

(市長)

千歳市においては、アイヌ協会の方々も非常に熱心でありまして、アイヌ新法で制定されたいろいろなことに沿って、自ら事業を起こすなど、非常に積極的な活動をしており、それに合わせて市としても応援をしたいと思っています。

直近では、アラスカで開催された先住民族会議があり、企画部長が参加したところでもあります。

(企画部長)

アイヌ文化国際交流事業についてご説明いたします。10月19日から25日までの間、姉妹都市であるアラスカ州アンカレジ市を訪問いたしました。

今回のアラスカの訪問団につきましては、アイヌ協会から中村会長を初め5名の方々、また伝承保存会から2名、市議会議長と市の職員を含め総勢12名で行っております。アラスカの先住民族会議に参加をしたほか、アンカレジの首長の表敬、アラスカ大学、アンカレジ領事事務所などを訪問し、最終的にアラスカ州の先住民族大会にアイヌ協会の方々に参加し、アイヌ協会のご紹介のほか、古式舞踊なども披露しました。アイヌ協会としても、今回の訪問については非常に成果があったという話を聞いております。具体的な報告会は後日協会の方で設定し、お知らせするというところでございますので、日程が決まり次第、市の方からもご連絡させていただきます。

(記者)

キウスの周堤墓群についてお伺いします。先日、私は初めてキウス周堤墓群に行きましたが、世界文化遺産に登録された事実があり、今年の来場者が2倍となったと聞き、ある意味ブームが起きていると感じています。来年春以降の展開の仕方が一時的

なブームで終わらせないためにも大切だと思います。インバウンドを含めた方々に対する事業の展開の仕方や、どのような方向性で継続的な人気を保っていくのかということをお伺いしたいです。

(市長)

世界文化遺産に登録されることはすごいことですから、その遺跡がどれほどの価値があるかということ、来ていただいた方にわかっているというのが大きな目標です。そのためには、その文化遺産を保護していくということが前提条件になっています。保護と公開のバランスがある中でどうしていくかが大事なことだと思っています。

(教育部長)

保護の関係で申し上げますと、暫定活用を図っている中で、周堤墓の中にはウッドチップを敷いていますが、多くの方々に来ていただくにはウッドチップは頑丈なものではないので、遺物遺構の損傷損壊ということが非常に問題となってまいります。その点に対し、令和7年度までにまず園路を整備し、その上を歩いていただくことで損壊を防いでいきたいと考えております。これが保護の観点です。もう1点の活用の観点ですが、こちらについては、ガイダンス施設の建設を前提にしております。これまで、令和3年度に2号周堤墓、それから今年度に1号周堤墓の調査発掘をしておりますので、その成果や、当時どのような形でこの墓ができたのかなどを学習できる施設にしてまいりたいと考えております。その点において興味を持っていただき、ますます多くの方に来ていただけるような施設にしていきたいと考えております。

(記者)

来年以降の取組みが大事になってくると思いますが、埋蔵文化財センターはキウスと場所が離れているため、埋蔵文化財センターを見学しただけでは魅力や価値を想像できませんでした。後にガイドの方に取組みを聞いてやっと価値がわかりました。例えば、埋蔵文化財センターまでのアクセスや、キウス周堤墓群までの空港からのアクセスを改善していくなどの事業展開をする予定はありますか。

(教育部長)

遺跡の位置はあの位置でしかないのです。キウスの近くに埋蔵文化財センターと同

じ大きさ、もしくは合併するような大きな施設を作るのが非常に理想的ですが、キウス周辺は他にも遺跡群がたくさんありますし、景観条例もありますので、コンクリートでできた RC の大きな建物を建てることは、キウス周堤墓の景観上あまりよくないと考えております。このため、影響を与えない範囲で、大体大きさは 200 平米ぐらいですが、そのようなガイダンス施設を設置していきたいと考えています。キウス周堤墓群のガイダンス施設と埋蔵文化財センターはどうしても離れてしまうのですが、そこについては各々の役割を持たせて、キウスについては周堤墓の関係のこと、埋蔵文化財センターについてはそれ以外の千歳市にある国指定史跡、そこから発掘されている遺物類もたくさんありますので、そちらを見せる施設にしたいと考えています。

アクセスの関係ですが、これも非常に問題ですが、私どもの施設が魅力をできるだけ出すことによって、民間の交通事業者、旅行代理店などからルートを作っていただけのような活動をしていきたいと思っています。北海道には、9月から札幌発の定期観光バスを出していただいております、一人でも利用者がいる場合は運行していますので、利用していただき、見に来ていただけたらと思っております。

(記者)

市長に伺います。日米共同訓練を行う関係で、オスプレイについては10月の日米共同訓練でも飛来したばかりということがありますが、今回の演習に関して言えば、市民団体から事故の危険であるとか、飛来の常態化を心配する声があります。市長はこうした声についてどのように考えていらっしゃいますか。

(市長)

国から正式にオスプレイの安全性についてしっかり検証しているということがあるので、私どもはその所見に従って認識するようにしています。一部市民の方々から、いろいろな意見があるということではありますが、意見はいろいろあっていいと思いますし、あることが健全だと思っています。これは一部の方に限らず、安全に運用していくということは非常に大事なことだと思っており、そのためにはいろいろな情報をできるだけ多く、市民の皆さんに提供することが必要だと思っています。

軍事的なことについては、なかなか私どもも情報が入手できないという状況にあ

ります。例えば、オスプレイについても、飛行経路など軍事機密に関することは事前に掌握できませんので、なぜわからないのかと言われれば、国の方で示していないからと言わざるを得ませんが、そのことに対して疑心暗鬼が生じているのではないかと思います。これは今後に関することですので、状況は受け入れながらも、なおかつその中で最大限の情報提供と安全確保を図っていくことに努めています。

(記者)

今回の統合演習に関しては、訓練の開始前からオスプレイが千歳基地に離発着して夜間飛行や市街地上空の飛行というのが確認されているかと思いますが、このことについて、市として何らかの対応を求める予定はありますでしょうか。

(市長)

その都度、北海道防衛局に確認をしておりますが、北海道防衛局でも、これは軍事上のことに関するので状況把握ができていません、という回答をいただく例も多々あります。明確な情報をいただいた際は、必ず市民の皆さんにお知らせすることにしています。オスプレイに関しては、どうしても私たちの目に触れる機会が少ないので、逆にいうと目に触れる機会があれば、市民の皆さんが目で確認できるような方法もあると思いますが、私は百里基地で一回実際に見ましたけれども、それ以外はなかなか直接見る機会はありません。このように機会がないということも、一つの不安要素になっていると思っております。

(記者)

オミクロン株のコロナワクチンの接種状況について、全国よりも低いということでしたが、理由についてどのように考えていますか。

(保健福祉部長)

ワクチンの接種状況については、現在低い状況になっております。この明確な要因は、私どもも把握ができていません。要因として考えられることとしては、夏の第7波以降、あまり重症化に至っていないという例があることや、ワクチン接種に伴う副反応に対して懸念を持たれている市民の方もいることが挙げられます。

高齢者等の接種に関しては、4回の接種を受けた後、3カ月が経過しないと打てな

いことになっています。10月からオミクロ株のワクチン接種を開始していますが、その時点で4回目接種を受けた方については、まだ接種対象期間となっていなかったということもありますので、この11月から期間が3カ月に短縮されたこともあり、順次4回の接種を終えた方も対象になってきます。現在、接種を終えた方はまだ低い状況ではありますが、この4回目の接種については、比較的積極的に接種される方が多いと想定しています。11月の予約状況等を踏まえながら、今後についても推移を見守っていきたいと思っております。

5. 閉会